

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

国内株式および国内債券市場 2020年4月～6月

運用先市場の状況

作成基準日 2020年6月30日

○国内市場

・株式市場

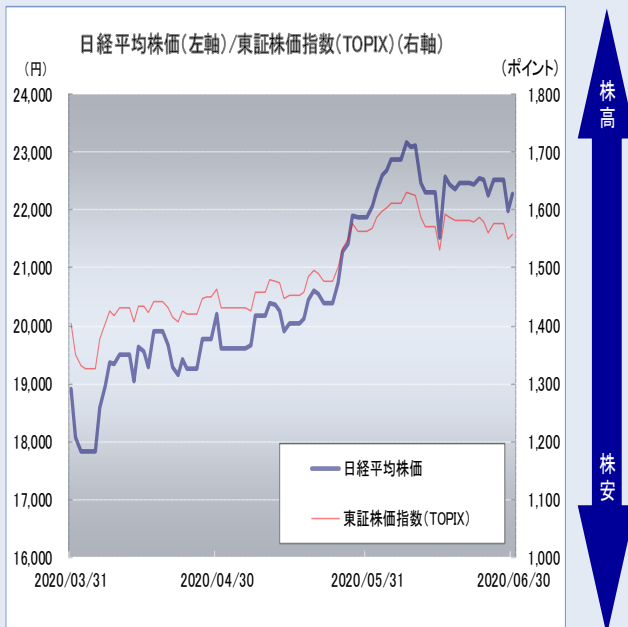
【コメント】

国内株式は大幅に上昇しました。

4月は、日銀短観での企業景況感の悪化などから下落して始まったものの、欧米での新型コロナウイルス感染増加ペースの鈍化、米国における金融緩和強化策が好感され、持ち直しました。下旬には、日銀による金融緩和の強化、新型コロナウイルス治療薬の開発期待などから上昇しました。

5月は、国内における新型コロナウイルスの新規感染者の減少やワクチン開発を巡る報道が好感されましたが、国内企業業績への警戒などから上値が重い展開となりました。下旬は、緊急事態宣言の全面的な解除や、事業規模100兆円を超える第二次補正予算を好感し、上昇しました。

6月に入ってから、米経済指標の改善や、欧州における金融緩和の強化などを受けて、上昇が続きました。中旬は、FRB(米連邦準備制度理事会)議長が米経済の先行きに慎重な見方を示したことなどから下落したものの米株高が支援材料となり、持ち直す動きとなりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

【コメント】

国内長期金利(10年国債利回り)はほぼ変わらずとなりました。

4月は、日銀短観が悪化したことなどを背景に、小幅マイナス圏へ低下して始まりました。下旬に行われた日銀金融政策決定会合では、積極的な国債買入れが追加緩和策として決定されたことで、長期金利は低下基調で推移しました。

5月は、海外での経済活動の再開や、財政拡大に伴う国債増発リスクが意識されたことが金利上昇材料となりました。下旬に緊急事態宣言が解除され、二次補正予算に伴う大規模な国債増発が決定されましたが、0%近辺で終わりました。

6月は、海外株高や原油高を背景に海外金利が上昇したことが、国内長期金利の上昇材料となりました。しかし、FOMC(米連邦公開市場委員会)で当面利上げはないとの見通しが示されるなか海外金利が低下すると、国内長期金利も再び0%近辺へ戻りました。月末にかけては国債増発への警戒が勝り、長期金利は小幅に上昇して終わりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関 : 三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

外国株式および外国債券、為替市場 2020年4月～6月

運用先市場の状況

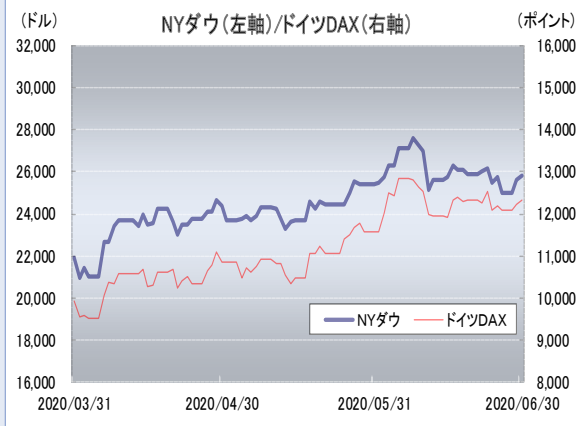
作成基準日 2020年6月30日

○外国市場

・株式市場

【コメント】

米国株式市場は大幅に上昇しました。
4月は、新型コロナウイルスの感染拡大ペースが鈍化し、経済活動再開への期待が高まったことなどから、大幅反発となりました。金融・財政政策が景気を下支えするとの見方も相場の上昇要因となりました。
5月は、中旬にかけて米中関係の悪化が懸念されたことなどから下落しましたが、経済活動の再開期待に伴う投資家心理の改善で上昇しました。
6月は、良好な経済指標や、人種問題に関連した抗議デモが沈静化してきたことが好感され、上昇しました。中旬には、FRB(米連邦準備制度理事会)が軟調な経済見通しを示したことなどが相場を押し下げました。欧州市場も大幅に上昇しました。
米国市場とおおむね同様の展開となりました。

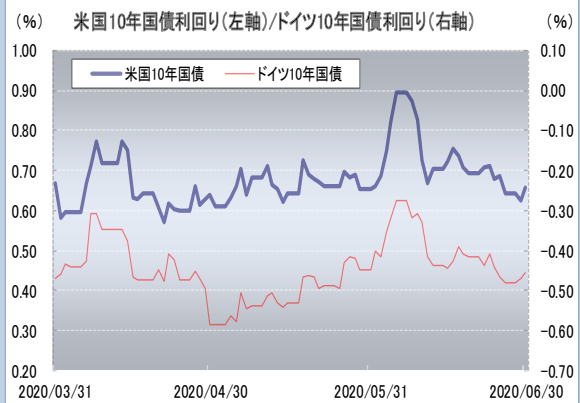


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

【コメント】

米国長期金利(10年国債利回り)はほぼ変わらずとなりました。
4月は、新型コロナウイルスの感染拡大ペース鈍化から、一時0.7%台後半まで上昇しましたが、米景気指標の大幅な悪化から金利は低下に転じました。
5月は、新型コロナウイルスワクチン開発期待などから金利上昇を試す場面が見られましたが、米中関係の悪化リスクなどが金利上昇を抑制し、狭いレンジ内での推移が続きました。
6月は、経済活動再開の動きが投資家心理の回復を後押しするなか、上旬に金利が上昇しました。その後、FOMCにおいて2022年まで低金利を維持することが示唆され、金利は低下傾向となりました。
ドイツ長期金利(10年国債利回り)もほぼ変わらずとなりました。
4月の下旬に景気指標の大幅悪化から金利が低下しましたが、概ね米国と同様の動きでした。

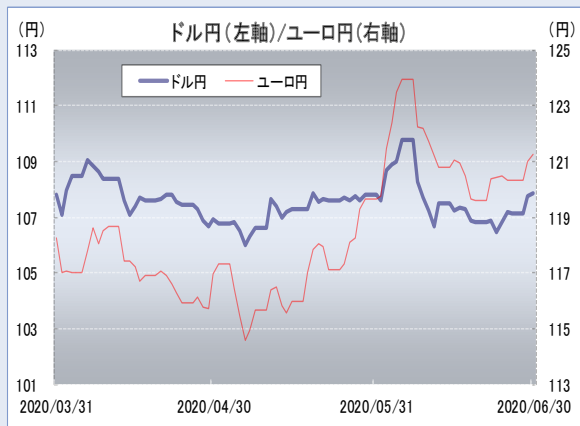


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

○為替市場

【コメント】

米ドル/円はほぼ変わらず、ユーロ/円は円安となりました。
4月は、強弱材料が交錯するなか方向感を欠く動きが続きました。月下旬には、経済活動再開への期待から、3月に逃避先通貨として買われた米ドルに売り圧力が高まり円高となりました。ユーロは、イタリアの格下げ懸念などが下押し圧力となりました。
5月は、米中関係の悪化が懸念され円高となりましたが、欧米諸国において経済活動の再開が段階的に進む中、円安となりました。ユーロは、欧州復興基金設立に向けた機運がサポート材料となりました。
6月は、経済活動再開の動きが投資家心理の回復を後押しするなか円安となったあと、中国や米国などで新型コロナウイルスの感染再拡大への警戒が高まり、円高となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。